

秩父 図書館報

秩父高校図書館
2019.12.13 No.136

目次

先生方の図書エッセイ	(2)
県北図書委員研修交流会報告 ...	(7)
秩父地区合同読書交流会報告 ...	(7)
2019年度ビブリオバトル	(8)
編集後記	(8)

おかえり、
栞の場所で待ってるよ

(二〇一九年読書週間標語)



先生方の図書エッセイ

世界史は面白い

校長 南 清孝 先生

私の専門科目は「世界史」です。本校では、「世界史B」を一年生で学びますから、この時点で全生徒が世界史の授業に関わったと思います。どうですか、面白いと感じましたか？多分、世界史の空間的・時間的な広がりや古代ギリシア・ローマの慣れない人名や地名から、苦手意識を持った人も多かと思ひます。

「歴史は繰り返す」という諺があります。「過去に起こったことは、同じような経緯をたどって再びやってくるものだ」という意味です。歴史を学ぶと同じようなことが、時代と形を変えて起こっていることに気がつきます。現在起きていること、近未来に起きることとは、必ず過去によく似たひな形があります。

現代の世界を読み解くためのヒントとして、「覇権の世界史・大陸のモンゴル・海のイギリス・空のアメリカ」（河出書房新社）を



紹介します。ローマ、イスラーム、中華、モンゴル各帝国の共通点は何か？弱小国のイギリスが、なぜシー・パワーを強大化できたか？アメリカの覇権を支える二つの「空」の力とは？5Gへの転換でアメリカに挑戦する中国。逆転の可能性は？

本の題名は難しそうですが、内容は高校の世界史教科書レベルです。これを読むことで、世界を理解するための一つの方法が身につくと思ひます。日本を取り巻く国際情勢を考えるヒントにもなります。時間的・空間的広がりを感じながら、教科書や歴史図表を見ながらワクワクする世界史を楽しんでください。



本から学ぶ

国語科 結城 彩 先生

私は昔から所謂、本の虫というやつです。活字を読まないとそのわすれくるくらい、毎日、本を読んでいます。一番好んで読むのは小説です。特にミステリー。小学生では赤川次郎、中学生ではシャーロック・ホームズに夢中になり、日本文学に限らずなんでも読むようになりました。最近はややミス（後味が悪い）やなミス（後味）やホラー要素の強いものに惹かれます。その中でも私が皆さんにオススメしたい本は、志賀晃の『スマホを落としただけなのに』です。映画化もされたため、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。麻美という女性の彼氏がスマホを落とした場面から始まりますが、このスマホ、狡猾なハッカーが拾ってしまっています。スマホに入っている写真を見て麻美を気に入ったハッカーは、彼女の人間関係を監視し、接近していきます。身近なSNSを介して陥れられてしまう…そんな話です。

さて、皆さんはSNSをやっていますか？ほとんどの方がSNSを利用していると思いますが、この本を読むとSNSの危険性を知り、危機感を抱くようになると思います。SNSに限らず、個人情報

報の取り扱いなども学べます。本は、私たちが普段生活していると気づけないことを発見したり、学ぶことができる人生の参考書のようなものです。本を読まなくても生活はできるかもしれませんが、本を読むことによって人生が豊かになります。忙しい日々を過ごしている皆さんも、ぜひお気に入りの本を見つけてほしいと思います。高校生だからこそ楽しめる本も、世の中にはたくさんあるのだから。

「つながり」を考える

社会科 久保田 弘樹 先生

私が皆さんに薦めたい本は、菅野仁という方が書いた『友達幻想』という本です。この本は中高生だけでなく、大人の方にも読んでほしいです。

皆さんは「友達」という存在について考えたことはありますか？学校の中を見ると、いつも一緒にいる子や一人が好きで、色んな人がいますね。どんな付き合い方がいいのですかね？気が合う子、合わない子、好きな子、嫌いな子などたくさん人間っていますよね。どうしますか？嫌いな人は全部ブロックですか？今の時代SNSなどはそうなっていますよね。現実でもそれってできますかね？

結局何が言いたいと言うと、今の子どもたちは人との繋がりについて考えてないと思います。たとえば、なかなか気が合わない子でもどうやってうまく過ごすかという事を考えないといけません。それにはぶつかったり、離れたりと様々なやり取りが必要だと思います。でも、それすらもやらない人が増えてきています。気まづくなるのが嫌だ、傷つくのが嫌だ、人間ってやらない理由を見つけるのは上手なんです。でもそれでいいんですかね。

この本にはそんな人との繋がりについて書いてあります。全員が全員と仲良くなれなんて言いません。ただ、色んな人とどう関わるかという事を考えてみるきっかけにしてほしいと思っています。

小説と映画を

両方楽しむ

理科 新井 義弘 先生
今時ハリーポッターを知らない人は少ないだろう。J・K・ローリング著のファンタジー物語、通称「ハリーポッター」は世界的に有名で、熱狂的なファンが多い。私もその一人である。

私がハリーポッターに出会ったのは中学生の時だ。友人に誘われ「アスカバンの囚人」(三作目)を

観に行くことになった。すぐに某レンタルビデオ屋に行き、既に公開されている2作品を借りた。DVDを再生した私は衝撃を受けた・「コンナオモシロイエイガがアツタノカー!!」。魔法使いをテーマとしたファンタジーな内容が当時の私にとってドンピシャだった。それに、ハーマイオニーの可愛さも相まって、まんまとハリーポッターの虜になったのである。

大学生のときハリーポッターが完結した。してしまった。ハーマイオニーに会えなくなった私は本屋に走り、小説を大人買いした。それまで本を読む習慣はなかったが、内容を知っているのだから読み終えるまでに時間はかからなかった。(それにハリーポッターの本は字が大きくて読みやすい。)小説を読んでみると新しい発見があった。映画はたいてい2時間程度。ゆえに省略されている部分がたくさんある。しかし、小説には心情や思惑、情景などが事細かに描かれている。それらの一つひとつが繋がりをもち、作品が作られているのだと知った。以来、小説と映画どちらも楽しむようになった。

小説の映画化や映画の小説化は意外と多い。もし、好きな映画や小説があれば探してみたい。きつと、今までとは違う視点で楽しむことができると思う。

明日のことまで

思い悩むな。

英語科 鈴木 聡 先生

「世界で一番発行されている本は何か」と問われた時、あなたは答えられるだろうか。

「ハリーポッター」でも「星の王子様」でもない。答えは、「聖書」である。

ごく普通の家庭で生まれ育った私と「聖書」との出会い、私が小学6年生の時だ。

ブラジルから、一人の少年が転校してきた。力が強く、サッカーをやらせたら誰よりも上手かった。今までクラスで威張っていた「ヤンチャ君」が舌を巻くほどの「ヤンチャ」振りだった。

そんな彼は、敬虔なクリスチャンでもあった。彼の死生観や人生観を聞けば聞くほど、日本人の私とは根本的に考え方が違っていることに気が付いた。その「違い」が、私にとって妙に面白かった。彼と会話を交わす度に、自分が「日本人」であることを深く実感させられたものだった。

ちょうど、今頃の季節だったように思う。中学生になり、彼は僕に一冊の本をくれた。それが「聖書」だった。

正直ほとんど興味がなかったが、彼が言うとおり、夜寝る前にバラ

バラと読んでみた。その時目に留まり、今でも覚えている一節が、題名の言葉である。

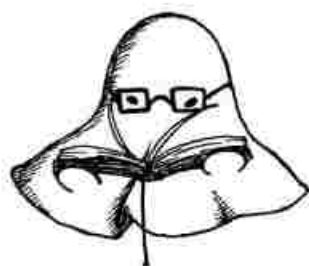
明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。

中学生の頃、部活も勉強も恋愛も何もかもが上手くいかなくて(今も上手くいっていないが)、毎日イライラしていた。そんな自分の心に、スッとこの言葉が入ってきた。

他のページは今に至るまで殆ど読んだことはないが、この一節だけは、それ以来忘れることなく覚えていいる。

以来、この一節にある通り、明日のことは深く考えず、毎日刹那的に生活している。

「本との出会い」とは、かくも一人の人間に影響を与える物なのである、。



真面目じゃない

真面目な話

英語科 小田切 優真 先生

私の薦めたい本は、横山光輝さんが書かれた「三国志」です。私は皆さんとは正反対の不真面目な人間でしたので、ゲームばかりして過ごしてきました。「三國無双」というゲーム、皆さんもご存知だとは思いますが、様々な武将が登場するこのゲームですが、私は「もつと深く知りたい」と思うようになります、高校一年生の時の誕生日にこのマンガを買ってもらいました。

そもそも三国志というのは中国が舞台であり、その名の通り三つの国による争いを描いたものです。西暦二〇〇年代の出来事なので、当然所説あるわけですが、横山光輝さんの描く三国志は蜀をメインに作られています。

皆さんに、なぜこの「三国志」を薦めたのかと言うと、勉強が嫌いな人でも勉強した気になれるし、それがキツカケで勉強をするようになることもあるからです。私は道から逸れてしまい結局英語になっしまいました。きつと今の「好き」が仕事になることもあると思います。三国志を読んだことで中国史に触れるようになるかもしれないし、この本の中で使われる日本語も若干古く読みづらい部

分もあるので、そういったところから、古典だったり漢文に意欲を示すようになったりすることもあると思います。

最後にこの作品で出てくる、諺になった言葉を紹介したいと思います。

「泣いて馬謖を切る」。軍師・孔明は、將軍・馬謖をとても気に入っていたのですが、「規律を破り、軍を危機に陥れてしまった馬謖を、ルールを軽んじたためにも涙をのんで切った」というところからできた言葉です。

「読書ノート作り」のすすめ

英語科 浅見 裕子 先生

今回、図書館報の原稿を依頼されて「さて、どの本を推薦しようかな？」と考えた時、ずっとメモの様に書き記していた、私の読書ノートをひっぱり出して、読み直しました。

教員として就職した時、仲間の先生が書いていたのをまねて、作り始めました。

本のタイトルや著者名、出版社はもちろん、読み始めた日付や、それを選んだ理由や、きつかけ。

読み終えた日付や、感想。特に読み始めた時の自分のまわりの状況や気持ちを記しておきました。日

記のようでもあり、私の年齢になると、自分の半生を顧るような存在でもあります。

大学ノート十五冊にもなりましたが、読み返すことも何度もあり、かなり、ポロポロですが、私の宝物です。

皆さんも、これから沢山の本と出会うと思います。せつかく時間を割いて読んだ本の事、忘れないためにも、ペンをとって、この本の事や、それにまつわる自分の考えや気持ちを書くことスツキリします。パソコンやスマホが主流の世の中になりましたが、鉛筆を持つて、自分の考え等を自由に書いてみる事は、けつこう楽しく役に立つ事です。

気楽に始めてみませんか。



本との出会い

家庭科 石渡 光子 先生

本との出会いで思い出すのは、高2の時、担任に薦められて読んだ三浦綾子さんの「塩狩峠」。あれは、衝撃的だった。

乗客を助けるために、暴走する列車に自らの命を犠牲にして、大勢の命を救った・・・。

当時まだ十七歳の私は、自分のことで手一杯。自分の命を誰かのために？そんな辞書は持ち得ていなかった。そんな生き方があるのか、そんな人が居たのか・・・涙が止まらなかった。

それから、食べるように三浦綾子さんの作品を読んだ。

二十歳の頃、手塚治虫さんの「ブッダ」を読んだ時も、ほんの数ページ捲ったところで、うきぎが行き倒れの僧のために炎の中に身を投じる場面。

あの時と同じ、それ以上の激しい衝撃が胸を突き言葉を失った。

住井すゑさんの「橋のない川」を読んだ時は、多くの虐げられた人々の闘いと犠牲の上に、今の平和があることを改めて知ることとなり、自分の無知を恥じる思いだった。

佐藤愛子さんの「私の遺言」これは、私のバイブルだ。今世を生きる私たちに、脈々と

続く魂の記憶。人生半分も生きてくると、今更ながら、「はて？私のミッションは？」なんてことを考えることもしばしば。

私のモットーは、「人生楽しく・いつも笑顔」そんな香気なことでもいいのかと思いますが、沢山の本に触れる中で、色々な人の考えや場面、思いに触れ、自分の人生では経験できないような事を疑似体験させてもらいながら、やつぱり辿り着いたのは、「人生楽しく・いつも笑顔」。

折角生まれてこれたのだから、沢山のリアルな経験と想いをどれだけできるか。そのための参考書と思つて、この冬休み、あなたの一冊に出会つて欲しいなあ。

明日は明日の風が吹く

音楽科 山岸 実桜 先生

タイトルのこの言葉を、皆さんはどこかで聞いたことがあるでしょう。アメリカの作家マーガレット・ミッチェルの長編小説『風と共に去りぬ』で、主人公のスカレットが放つ名台詞として大変有名な言葉です。この本を読んだのは、進路に悩み始めた高校2年生の時でした。人間味あふれる主人公が力強く前向きに生きる姿と言葉が、自分を強く持つことの大切

さを私に教えてくれたのだと思います。

物語の舞台は、黒人奴隷制度の残る一八六〇年代のアメリカ南部。農園主の娘スカレット・オハラは、その美しさで男性たちを魅了していました。しかし、スカレットの思い人アシュレーは従姉妹のメラニーと婚約してしまっています。当てつけに結婚したスカレットでしたが、南北戦争が勃発し夫を亡くしてしまいます。戦況が悪化し多くの男性が出兵していく中で、アシュレーに託されたメラニーとその子どもと共に戦火を潜り抜け生き延びるスカレット。再び足を踏み入れた故郷タラは、南北戦争により変わり果てていました。アメリカ南部白人の貴族社会、黒人奴隷制度、南北戦争など時代の波に翻弄されながらも力強く生きる主人公の名台詞に込められた意味を、本を手に取り考えてみてください。



孤高の画家 田中一村

美術科 船崎 滋 先生

皆さんは田中一村という日本画家をご存知でしょうか。近年美術の教科書では大きく取り上げられる様になり、私の授業でも田中一村の『アダンの海辺』をビデオ鑑賞しました。神童と呼ばれていた一村は画家を志し、大正一五年一八歳で東京美術学校日本画科に入學します。同級生には東山魁夷や橋本明治がいました。しかし三ヶ月で退學してしまいます。画壇に属さず師匠も持たず制作を続け、三九歳の時に中央画壇の公募展で初入選を果たします。その後日展、院展に自信作を出品するも落選が続きます。同期の画家はすでに高い評価を受け審査員になつていました。挫折した一村は過去と決別するかのごとく作品を鉋で壊し燃やしてしまいます。

そしてそれまでの一切の生活を捨て、昭和三年五〇歳の時に單身奄美へ旅立ちます。知人の伝手を頼りにハンセン病患者の療養施設 奄美和光園を訪ねます。三年後、絵に没頭するため粗末な小屋をアトリエ兼住居にし、亜熱帯の自然に強く惹かれた一村は植物や鳥や魚、またそこで暮らす人たちの信仰に触れその精神を絵に込めました。制作費と生活費を稼いだ

め大島紬の染色工として、五年働いて三年間描き、二年働いて個展費用を作り個展を開く計画でしたが、生前その夢は叶わず、無名のまま一人亡くなりました。

天才が挫折を乗り越え、売る為でなく自分が納得する為に、一杯のお茶さえ我慢して高価な岩絵の具を購入し、なりふり構わず絵を描くことだけに人生全てを賭けて制作した奄美の作品は、死後七年NHKが取り上げたことで大反響を呼びました。

今では鹿児島県奄美大島に田中一村記念美術館があります。機会を見つけて是非訪れてみてください。その前にNHK出版の「田中一村作品集」をご覧くださいとより理解が深まります。



考えるための教科書

事務 植原 里佳 主事

高校に入学して間もないころに『十四歳からの哲学』を読みました。学校の課題図書だったからという軽い理由で読み始めましたが、以来この本は私にとってのバイブルです。私に「考える」方法を教えてくれました。それまで私は「思う」とか「悩む」ことはしてきただけで「考え」られてはいなかったんだと気づかせてくれました。それを知ったときは本当に驚きました。当たり前だと思っていたことが実は何もわかっていなかったのです。だから「考える」ことについて知りたいと思うようになりました。

この「考える」とはいったいどういうことなのだろう。君は生きているということは素晴らしいと思うか、それともつまらないと思うか、そんな問いからこの本は始まります。それは人それぞれ違うんじゃない？と思うでしょうか。でも、ただ自分で思っているだけではない本当のところはどうなのだろう。本当は生きていることは素晴らしいのかつまらないのか、どっちだろう。この本当のことがかどうかわかるうとすることが「考える」始まりになると著者は述べています。私は考える試みを

始めてから、何か多くを知ることができたのかと聞かれれば全く逆で、どんどんわからなくなっています。わかったことといえば、自分分は知らないことばかりだなというくらいです。少しでも気になった人は、是非読んで確かめてみてください。



無用の用

体育科 高原 義明 先生

はつきり言って、教科書以外の本は読まなくても支障はない。それでも「趣味は読書」と言っているの、どんなメリットがあるのか考えてみた。※個人の感想です。まずは小説である。一言でいえば作り話だが、読んでみれば面白い。人の一生は、どう転んでも一回きりだが、小説は別の世界を見せてくれる。東野圭吾の『新参者』、池井戸潤の『下町ロケット』、川口俊和の『コーヒーが冷めないうちに』、百田尚樹の『永遠の0』などは話題にもなったので覚えていられる人も多いだろう。最近のお気に入りには、知念実希人の『天久鷹央の推理シリーズ』である。女医

さんが活躍する小説だが、内容は割愛する。

ちなみに小説は映像化されることが多いので、別に本を読まなくてもストーリーを楽しむことは出来る。そう考えると本として読む必要があるのは、専門書やビジネス書、あるいは自己啓発本などであらうか。

専門書は個人の必要に合わせて選択する。部活動や趣味に力を注いでいる人は、是非とも「自ら学ぶ」ためにも読むといい。なお、自分の専門や趣味以外の本には、自分の知らない世界観がある。卓球の水谷隼選手が書いた『負ける人は無駄な練習をする』などは受験生にもいいのではないかと思う。ビジネス書からは、仕事や勉強の進め方、組織作りや運営方法が学べる。『アウトプット大全』や『メモの魔力』、『チーズはどこに消えた』などが印象に残っている。自己啓発本に至っては、これでもかというほど出版されている。『グリット』『ブレインプログラム』『片づけ脳』などは面白いと思った。脳科学に基づいた本は、ただ単にガンバレではなく、根拠を示してくれるのいい。ただ、この手の本はブームが終わると忘れ去られる。これはという本を繰り返し読み込み、実践することが大切だろう。

教育関連では『A I vs教科書が読めない子どもたち』や『学力の経済学』、『本当の頭のよさって何だろう』が面白いと思った。理系が苦手な人には『空想科学読本』のシリーズがオススメだ。身近にあるアニメを大真面目で科学したものである。笑える。

最後に取り上げるのは漫画である。昭和の頃は「漫画を読むとバカになる」といわれたが、今や日本を代表する文化となった。個人的に漫画はあまり読まないが『ドラゴン桜』は受験生のバイブルといわれたこともある。読んでみてください。大変ですけど。

以上、読書について考えてみたが、本は図書館で借りることをお勧めする。何とんでも「タダ」である。秩高で奨学金を貰える人は何人もいないが、図書館で本を借りれば、奨学金を貰うくらいの恩恵が受けられる。是非、図書館には足繁く通ってもらいたい。

ところで、文頭に出てきた教科書も本である。東大首席が書いた本によれば、教科書は七回読むといいらしい。健闘を祈る。



2019

県北図書委員研修交流会報告

今年度のテーマは「はたらく北部の図書委員たち」。寄居町中央公民館で6月19日に開催。北部地区の図書委員や図書部員が集まり、研修し、交流しました。本校からは、文芸図書部の4名が参加しました。来年度は秩父地区（4校）が主催します。

◇「文学カルタ」参加

二一三 扇原 里佳

あまり一年生と会話をしたことがなかったので不安だったのですが、会場に着いた後、昼食をとりながらたくさん話すことができ、良い仲間になることができました。分科会は読み上げられるストーリーのあらすじを聞いて、該当する小説やマンガ、絵本の表紙が印刷された絵札を取るというゲームです。私は一回しか勝つことができませんでした。同じ本が好きの子と語り合ったり、あらすじを聞いて読んでみたいと思える本を見つけることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

◇「文学クイズ」参加

一一二 伊古田 真都

最初、知らない人ばかりで不安しかありませんでした。まさかのグループ活動でしかも同級生が一人しかいなかったの話をすることができませんでした。しかし、問題を解いていくうちに打ち解けることができ、少しだけ親しくなることができました。

◇「リリックリレー」参加

一一七 逸見 円香

た。問題も様々なジャンルから出題されたため、知識を深めることができ良かったです。

はじめての体験だったので最初は不安でしたが、担当のスタッフの方のサポートもあり、班員たちとともに楽しみながら交流することができました。リリックリレーはお題にそって各班で詩をつくります。同じ班に知っている人はいませんでしたが、全員同じ状況だったのですぐに打ち解けることができました。来年は秩父地区が運営する側なので、がんばりたいです。

◇「ピリオバトル」参加

一一七 山下 優香

知らない本を知れてよかったです。また、もともと知っている本の魅力を改めて知れてとても楽しい時間になりました。優勝した方のプレゼン以外もとても面白くて、とても参考になりました。来年、ピリオバトルに参加するときは優勝できるようにになりたいです。

秩父地区合同読書交流会報告

十一月二日（金）第三九回秩父地区読書交流会が秩父高校図書館研修室を会場に開催されました。秩父地区、四つの高校の図書委員や図書部員が集まり、参加者は一人ひとりおススメの本を持ち寄り、ピリオバトルを行いました。秩父高校からは文芸図書部の七名が参加しました。

二一一 兼平 美優

二回目の参加でしたが、とても楽しかったです。司会をやるのがとても不安でしたが、スムーズに進んでよかったです。

二一一 吉田 芽以

二回目の参加だったので緊張せず楽しむことができました。レクリエーションは他校と協力したり大勢で楽しんだり有意義な時間を過ごしました。ピリオバトルでは司会は初めてでしたが、問題なく進め、紹介本を通じて色々な事を聞けました。とても楽しかったです。

二一一 内田 舞菜

去年に続き二回目の参加でした。レクリエーションはすごく盛り上がり、他校の生徒との距離が近付いたと思います。ピリオバトルでは様々なジャンルの本を知ることができ、とても良い経験になりました。

一一二 伊古田 真都

他校の参加者は、初対面でしたが、レクやピリオバトルを通して親交を深めることができ、とても有

意義な時間を過ごすことができました。特にピリオバトルでは、皆さん個性豊かな発表でとても楽しかったです。また次の機会も楽しみです。

一一三 堀口 美風

「みんな本が好きなんだなあ」と思いました。本の説明するのがみんな上手で、本に対する愛が伝わってきて、聞いていて楽しくなりました。読みたい本がいっぱい出来ました。

一一二 宮谷 涼華

今回、参加して色々な事を知ることができたり、色々な人と交流を持てて、とても楽しかったです。普段本はあまり読まないのですが、今回紹介された本を読んでみたいと思いました。

一一七 富田 楓

レクリエーションでは、多くの人と交流することが出来て楽しかったです。また、ピリオバトルでは多くの本を知ることができ、自分の発表する力も養えたと思います。次回も是非参加したいです。

☆2019年度ビブリオバトル☆

ビブリオバトルとは、五～六人の班に分かれて、一人ひとりおススメの本を紹介しあい、「どの本がいちばん読みたくなったか」を投票で決める書評合戦ゲームです。今年度は六月二〇日に実施されました。一・二年生各クラスチャンプ本は次の通りです。

☆一年☆

朝井リョウ 『風と共にゆとりぬ』

飲 茶 『14歳からの哲学入門』

三秋 縋 『三日間の幸福』

サンリテグジュペリ

『星の王子さま』

星野 源 『蘇る変態』

川原 礫

『ソードアート・オンライン』

樺沢 紫苑 『神 時間術』

☆二年☆

筒井 康隆 『パブリカ』

ダニエル・キイス

『アルジャーノンに花束を』

オグ・マンディーン

『十二番目の天使』

『@ベイベーメール』

エプリスタ

『5分後に戦慄のラスト』

七尾 与史

『死亡フラグが立ちました！』

柳田 理科雄

『空想科学読本』

よく読まれた本ベスト10

1	君の隣を食べたい	6	星の王子さま
2	世界から猫が消えたなら	7	人間失格
3	サマーウォーズ	8	カラフル
4	君の名は。	9	かがみの孤城
5	ビリギャル	10	コンビニ人間

今年度は文化祭一般公開日に二年のクラスチャンプによるビブリオバトル決勝戦が行われました。三グループに分けそれぞれ勝ち上がった一・五豊田優さん、二・一中川颯人さん、三・四出浦愛さん三名で最終決戦となりました。結果は二・一中川颯人さん（『パブリカ』）が優勝し、一〇月二六日に、さいたま文学館で開催された彩の国高校生ビブリオバトル大会に出場しました。

彩の国高校生ビブリオバトル大会 出場者の感想

二・一中川 颯人

秩父高校を代表して、他の学校と交流する活動というのは初めてでとても緊張しました。会場で見かけるパトラー達はいかにも勉強ができそうな風体で、引け目を感じたりもしました。しかし自分の発表となり、腹を決めて「喋りだすと、伝えたい言葉が上手いこと口から飛び出していき、とても満足のいく発表にすることができました。決勝にまで残れなかったのは残念でしたが、たくさんさんの素敵な本と発表に触れることができたのはとても面白かったです。今回の替え難い体験を今後の勉強に活かしていけたら良いと思います。



よく読まれた作家 ベスト5

1	住野 よる
2	東野 圭吾
3	山田 悠介
4	知念実希人
5	湊 かなえ

★編集後記★

秋もいつの間にか過ぎ去り、冬も一段と強くなって来ましたが皆さんはどう過ごしているでしょうか。

この図書館報には、新転任の先生方・読書家の先生方に「本に関するテーマ」でエッセイを書いて頂きました。先生方の想いの詰まっている文章なので、面白い本が見つかるかもしれません。

見つかったら、是非図書館に足を運んでみてください。きつと、もつと本が面白くなりますよ。

（図書委員長 坂本 明輝）



編集委員 図書委員
表紙絵 二年三組 扇原 里佳
カット イラスト研究会

秩高図書館報

第一三六号

発行日 二〇一九年十二月三日

編集 秩父高校図書館

印刷所 樹萩原印刷